

ひがしの



【1/12 書初め】全力集中!

ウイルスの次にやってくるもの

東野小学校長 浅井 誠

みなさん一人ひとりには、持ち味(よさ)が必ずあります。持ち味を出して、自分を高めることに挑戦し続けましょう。仲間の持ち味もたくさん見つけましょう。(1/11 冬休み明け集会での話より)

1月11日に元気に登校した子どもたちへ、絵本「りんごがたべたいねずみくん」を使って話をし、締めくくりに向けて歩み出しました。しかし、わずかな期間で新型コロナウイルス感染症の拡大が進み、学校生活も「第5波」時へと逆戻りしています。

「with コロナ」の生活が、想像以上に難しいことであると改めて感じています。

新型コロナウイルス感染症は、確かに恐ろしいです。

でも、その次にやってくるものの方が、もっと恐ろしいものではないかと考えます。

不安と恐怖の中では、疑心暗鬼が生まれ、責めること、傷つけあうことが起きやすくなります。その結果、集団が分断されます。そうすると、感染症への不安や恐怖だけでなく、非難される、分断されるという不安や恐怖も生まれてしまいます。

恐れるべき相手は、人ではなく“ウイルス”です。にもかかわらず、「コロナ差別」が実在する理由は、ウイルスの次にやってくる不安や恐怖が起因であると考えます。

子どもたちは、これまで道徳の時間などを通して、人が陥りがちな弱さによる差別・偏見といった言動の値打ちのなさについて学習しています。新型コロナウイルス感染症の恐怖に立ち向かっている今こそ、その学習の成果を発揮するときです。

岐阜県に「まん延防止等重点措置」が適用された21日の朝、児童会長の伊藤晴稀さんが「僕たちが意識して生活すれば、必ず危険な状態はよくなって安心して生活できます。みんなで力を合わせてがんばりましょう!」と、Zoomの画面を通して、全校の仲間たちに熱く訴えました。

子どもたちは、この危機を力強く乗り越えようとしています。みんなの心に不安や恐怖があり、みんなの心がストレスにさらわれています。そんな今だから、お互いに理解し合い、優しい言葉をかけ合い、支え合うことを大切にしていきます。

新型のウイルス、新しい脅威、誰も経験したことがない世界の混乱…その中で、正しく怖がることは、簡単ではありません。でも、“正しく知る”というウイルスに立ち向

かう“武器”をもち、晴稀さんの訴えのように、みんなが温かい持ち味を発揮し、団結していけば、不安や恐怖よりも強く、賢くなり、「with コロナ」の中、誰もが笑顔で、安心して生活できる社会の実現につながるのではないかと考えています。



丸山文憲さんのお世話になり、1年生が竹とんぼ・大根鉄砲つくりを体験しました。(1/12)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、様々な予定や行事等が中止、延期、変更しています。引き続き保護者や地域の皆様のご理解と温かいご支援をよろしくお願いいたします。